地域に信頼される「コミュニティ・アーキテクト」を目指して

東京23区における城北地域位置図

城北地域会

私たちは、豊島・練馬・板橋・北区の４区と、その周辺からなる城北地域の特性を生かした諸活動を展開しようとする地域会です。まち歩きや勉強会を通して、広域的な視点から地域固有の諸問題や特性について議論と検証を重ねてきました。

会員

秋山 信行	磯部 和久	久間 常生	鈴木 和貴	信原 利行	藤本 昌也
阿部 治子	伊藤 伍朗	齋藤 孝彦	田口 雅之	早川 泰	松本 哲夫
飯村 和道	大川 宗治	佐野 綾	竹内 啓二	林 秀司	南 知之
石田 敏明	片山 和俊	柴田 いづみ	武田 実代子	廣瀬 光夫	
泉 幸甫	亀井 天元	柴田 知彦	中嶋 富男	深川 良治	

震災やエネルギー問題がきっかけで、国や社会全体の方向性に関し今後急激にパラダイムシフトが進むと思われます。また少子高齢化、人口の大幅な減少が予想される2050年の都市や建築を取り巻く状況は、現在とは大きく異なるでしょう。今後の地域の建築やまちを仲間と共に考え、将来のあるべき姿を見つめたいと考えています。

そのころ私たちは、まちづくりの専門家「コミュニティアーキテクト」として地元により深く信頼され、みんなが誇れる環境、景観、空間づくりへ向けて活動しているイメージが望まれます。

2050年の城北地域

練馬区光が丘地区

1972年

2011年

今から64年前、アメリカ空軍・家族宿舎であるグラントハイツと呼ばれた場所は、1972年に返還されてから、約40年かけて現在の街に発展してきました。2050年の光が丘は、建築家が地元地域の方々と交流・ディスカッションを重ねた、皆が誇りに思うさらに素晴らしい街が形成されていることでしょう。

石神井川（山下橋付近）

1956年

2011年

戦後の高度経済成長に伴い、田園地帯が都市に飲み込まれて50年が経過しました。地下水の涵養、湧水再生、親水化により雨水排水溝と化した石神井川が、2050年には多様な動植物が生きる「暮らしとともにある川」でありたいと思います。

城北地域会の歩み

※空間WS＝空間ワークショップ

2007
- 城北地域会設立
- まちあるき：王子・巣鴨地蔵通り
- アーキテクツガーデン
- まちあるき：目白

2008
- まちあるき：赤羽台・栂ヶ丘団地
- ショートレクチャー：入間 基生氏「すてき郊外の最低限住宅」
- 空間WS：豊島区立仰高小学校
- 空間WS：武蔵野市立第三小学校
- まちあるき：都電荒川線沿線

2009
- 空間WS：Qubell（ぎゃーる）アトリウム
- ショートレクチャー：斎藤 孝彦氏「建主との対話から創造性の目覚めたこと」
- ショートレクチャー：柴田 知彦氏「協働」即「住民ニーズ」は誤解の源泉」
- アーキテクツガーデン
- 空間WS：専門学校 中央工学校
- ショートレクチャー：入間 基生氏「コミュニティーアーキテクト活動」

2010
- 空間WS：武蔵野市立桜野小学校
- ショートレクチャー：秋元 茂夫氏「建築設計における地域会の位置付け」
- 空間WS：埼玉県松伏市役所前広場「新緑の緑のデザイン」
- ショートレクチャー：秋元 茂夫氏「松本 哲夫氏の紹介」
- まちあるき：城南住宅、常盤台
- 空間WS：豊島区立仰高小学校
- アーキテクツガーデン
- ショートレクチャー：秀島 乾氏「石神井地区のまちづくり」

2011
- 空間WS：武蔵野市立桜野小学校
- ショートレクチャー：斎藤 孝彦氏「境界に立つ」
- 空間WS：武蔵野市立千川小学校
- 空間WS：石神井地区

2050

東京書籍見学（まちあるき：王子・巣鴨地蔵通り）

鬼子母神参道（まちあるき：都電荒川線沿線）

空間ワークショップ

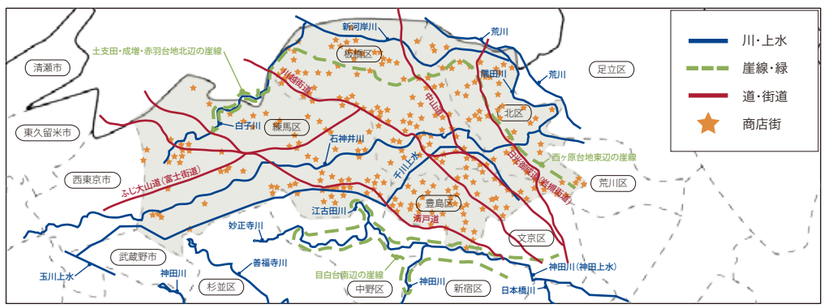
城南住宅（まちあるき：城南住宅, 常盤台）

まちづくり意見交換会

ショートレクチャー：松本哲夫氏

地域会例会の様子

城北地域をつなぐもの



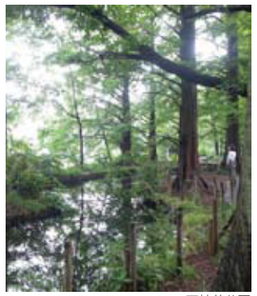
川・上水　石神井川、白子川、千川上水、神田上水
荒川、隅田川、新河岸川

崖線・緑　土支田・成増・赤羽台地北辺の崖線
西ヶ原台地東辺の崖線
目白台南辺の崖線

道・街道　中山道、清戸道、ふじ大山道（富士街道）、
川越街道、日光御成道（岩槻街道）

商店街　仲宿、大山商店街（旧大山宿）、
霜降・染井銀座商店街、
巣鴨地蔵通り商店街（旧中山道上）等

霜降・染井銀座商店街



石神井公園

本地域会のエリアは、現在の行政区境が定まる前から、自然・地勢的にも、人の営みの面でも深いつながりや共通項を持っています。私たちはこのつながり、共通項をよく示す「川・上水」、「崖線・緑」、「道・街道」、「商店街」の４項目に着目し、まち歩きによる地域調査を行ってきました。

左の絵は地図上に私たちが着目した4項目の主な地点・エリアをプロットしたものです。川の流れや崖線は地勢的に、街道や商店街は人々の活動で、線、点として様々につながり関連していることが読み取れ、視野が広がります。これらを漸次整理しながら、地元の専門家・建築家集団として、まちの良さ・魅力を再発見し今後の地域まちづくりに貢献できればと考えています。